

ゴージャスお宝鑑定家「う くん、ゴージャス」(80分超)

第一章：ゴージャスな出会い(10分)

シーン：

『剛田質店』の外観が映し出され、煌びやかな装飾が施された高級感漂う店構えが強調される。店内にはゴールドやシルバーのディスプレイが並び、ちよつと不自然なほどに派手なインテリアが目を引く。

ナレーション

「ここは剛田質店。ゴージャスを愛する男、剛田の店。『ゴージャス』とは、ただの物の価値じゃない。それは…まあ、言葉で説明するのは難しいけど、まずは店主を見てみよう。」

店内、剛田が優雅に歩きながら、色とりどりの宝飾品を触る様子が映る。彼の仕事は舞踏会の王子さながら。

剛田（手を広げながら）

「ゴージャス！！ 今日も素晴らしい一日が始まった！白金くん、君もこのゴージャスな雰囲気を感じているか？」

白金が冷静に机で書類を整理しながら、少し眉をひそめる。

白金（心の中で）

「毎回ゴージャス言うけど…こんな豪華な店にこざわりすぎじゃないか？と思うけど。」

剛田は白金に近づき、嬉しそうに彼の肩を叩く。

剛田

「君も今日、ゴージャスを感じることになるよ。さあ、準備はいいか？」

白金（少し不安そうに）

「準備、ですか…？」

剛田（ニッコリと）

「ゴージャスな品物が入ってくる予感がするんだ！」

ドアのベルが鳴り、店にお客様が入ってくる。

剛田が勢いよく振り返る。

第2章：ゴージャスな品物到着（12分）

シーン：

お客様が店内に入る。手に小さな箱を持ち、少し緊張した様子で白金に声をかける。

お客様

「すみません、これ…売りたいんですが。正直、価値が分からないんです。」

白金は箱を受け取るよ、中からメリケンサックを取り出す。サムライが光り輝いているが、デザインはかなり奇抜で、普通の人が見ればただの武器のよっに見える。

白金

「これ、メリケンサックですよね？」

剛田が突然登場し、目を輝かせてその品物に手を伸ばす。

剛田

「ゴージャス！！」

白金（驚きながら）

「えっ！？ あ…あれ、ですよね？武器ですよっ？」

剛田（目を細めて）

「見ろ、このサファイアの輝き！これこそ、ゴージャスの真髄だ！この品物、ただのメリケンサ

ツクではない！誠実、知恵、そして誓いを宿している！」

白金は半信半疑な表情で、サファイアを手にとる。

白金

「えっ、でもこれ、普通に武器として使うものですよね…？」

剛田（悠然と）

「ゴージャスな者が使えば、これはただの武器ではない！これは誠実を守り、知恵を授け、誓いを貫く力を宿す“守護の宝物”だ！」

白金がさらに混乱しながらも、思わずサファイアをじっくくり見しめる。

第3章：価値を見極めろ！（15分）

シーン：

お客様が品物の価値を問う。白金は慎重に
価格を設定しようとするが、剛田がすべに割
り込む。

お客様

「これ、いくらぐらいで買ってもらえるんでしょ
うか？」

白金が計算し始めるが、剛田は目を輝かせ
ながら答える。

剛田

「500万円だ！このサファイア、ただの宝石じ
やない。誠実、知恵、誓いを宿しているんだ。
この輝きは無限の可能性を秘めている！」

白金（思わず）

「500万！？それって…あまりにも高すぎま
せんか？」

お客様（少し驚きながら）

「でも、これほどのサファイアなら、価値があるのかな…？」

剛田（堂々として）

「ゴージャスな品物には、それに見合った価値が必要だ！価格はただの目安だよ、白金くん。ゴージャスはその価値を感じ取れる者にか分らない。」

白金は田を見開き、あきれる。

白金

「でも…これ、本当に500万円の価値があるんですか？」

剛田（微笑みながら）

「もちろんだ、白金くん！サファイアの石言葉を知っているか？誠実、知恵、誓い、そして永遠の守護…。これを持っていれば、誰もがゴージャスを感じることができるんだ！」

白金は心の中で「サマーマの石言葉…。」
「じつちまきながら、剛田が話す熱弁を半信半
疑で聞く。

第4章：疑問と混乱（13分）

シーン）：

取引が終わった後、白金は店の裏で悩んでい
る。どうして剛田があんなに自信満々に価格
を決められるのか、納得がいかない。

白金（心の中で）

「500万円…。サファイアの価値は分かるけ
ど、メリケンサックとしての機能を考えると、
やっぱり…高すぎる気がするなあ。」

剛田が後ろから近づいてきて、白金の肩を叩
く。

剛田

「どうした、白金くん？悩んでいる顔をしているぞ。」

白金

「いや、ちよつと疑問に思つて…。本当にこの品物にその価格をつけていいんですか？」

剛田（自信満々に）

「ゴージャスなものに値段は必要ないんだ。」

『価値』を感じる者にこそ、この品物の本当の価値が分かる。それがゴージャスさ。」

白金（悩みながら）

「でも、どうしてその感覚を他の人も分かってくれるんでしょうか？」

剛田は穏やかな表情で言葉が続ける。

剛田

「だからこそ、君にはもっとゴージャスを感じる

感性を育ててほしいんだよ。これが剛田質店の教えさ。」

第5章：ゴージャスの教訓（15分）

シーン：

数日後、別のお客様が新たな品物を持ってきて、白金が再び価格を決める場面。白金は少し自信を持って、剛田の教えを思い出す。

お客様

「このネックレスを売りたいんですが、いくらぐらいで買い取ってもらえますか？」

白金はじっくりと品物を見つめ、少し考えた後、口を開く。

白金

「これは、500万円ですね。」

剛田がにっこりと微笑みながら、白金の肩を叩く。

剛田

「素晴らしい！君もついにゴージャスを感じられるようになったんだ！」

第9章：ゴージャスの真髓（13分）

シーン：

最後に、剛田が店を後にする白金に話しかけ、ゴージャスの本質について語る。

剛田

「ゴージャスとは、物そのものだけではない。君がそれをどう感じ、どう伝えるかだ。心を込めて、物に魂を宿す。それがゴージャスの力だよ。」

白金（少し自信を持ちながら）

「わかりました…。ゴージャスを感じるって、物

だけじゃなくて、心にも宿るものなんです
ね。」

エンディング（7分）

シーン：

店を閉めて、二人が外に出る。星空の下を歩
きながら、剛田が再びゴージャスについて語り
続ける。

剛田

「ゴージャスは心に宿るものだ、白金くん。い
つか君も、この世のすべてにゴージャスを見つけ
られるようになるだろう。」

白金（少し戸惑いながら）

「でも、やっぱりまだよくわからない気がしま
す…。」

二人が並んで歩くシーンで、エンディング。

エンドロール

尺割

- ・ 第一章（冒頭・ゴージャスな出会い）―― 10分

- 店の設定や雰囲気、剛田店主の個性、白金との関係を描く。
- 剛田が店に入ってきたお客様に対し、「ゴージャス！」と叫ぶシーンなど、彼のキャラクターを強調。

- ・ 第二章（ゴージャスな品物到着）―― 12分

- メリケンサックが店に持ち込まれ、白金が品物に対して懐疑的に反応。
- 剛田が品物の価値を熱弁し、その豪華さに白金が驚きながらも反論。

- ・ 第三章（価値を見極めろ！）―― 15分

- 白金が価格を決めかねている中、剛田が強引に価格を決定。
- ここで、サファイアの石言葉や、ゴージャスに関連した過剰な解説をするシーンが続き、価格設定に対する混乱を描写。

・ 第4章（疑問と混乱） - 13分

- 価格が決まった後、白金が価格に対して疑念を抱き、剛田の「ゴージャス」の真意を探る。
- 白金の心の葛藤を深掘りし、対比的に剛田がゴージャスの哲学を語る。

・ 第5章（ゴージャスの教訓） - 15分

- 別のお客様が再び訪れ、白金が前回の経験を活かし、少し自信を持って価格設定を行う。
- 剛田がさらにゴージャスを強調し、白金の成長を描写。

・ 第9章（ゴージャスの真髄） - 13分

- 最後のセリフやエピソードでゴージャスの本質を少し抽象的に伝え、白金が最終的に理解し始める。
- ここでは、剛田がゴージャスを単なる物理的な価値としてではなく、心や精神にも結びつけて語る。

・エンディングー分

- 物語の締めくくりとして、二人が店を後にし、剛田が最後に「ゴージャス」を意味深に語りながら歩くシーン。

- ショートエピソードであっても、余韻が残るように調整。